

# シリーズ ふるさとへの想い④

## 「今のままで」

向津具中学校三年 今津礼子



私は、油谷町が好きだ。そして私の住んでいる大浦が好きだ。

私が0歳の頃から暮らし続けてきた大浦の人は、みんな温かい。知らない子にも声をかけていくし、他人の子の心配までしてくれる。世間ではおせっかいに当たる存在でも、そんなふうに思わせないところがいい。

いつも周りの人とバカ言い合いながらも、自分の好きなことをしながら生きているおじさんやおばさんがカッコイイと思う。

ここは、眺めがいい。窓を開けると海が広がっていて、遠くには山が見える。十四年もこの景色を見て、全然退屈しない。こんな場所は珍しいと思う。

だけど、この地域は人口が少ない。思いつきで騒げる祭りでも、今一つ何か盛り上がりに欠ける。

人口を増やしていくためには、一番早いのは観光できる場所を作って、道路を広くすること。

油谷町は海がきれいで魚もとれる。大浦をもっと奥へ行くと、俵島もある。

俵島は、潮がひいた時は島へ歩いて渡れるが、

潮が満ちてしまうと歩いて渡れない。こんな特徴のある島は珍しい。

私は、多くの人にこの島のことを知ってほしいと思う。

そして、釣り客などが泊まれる宿も作ればいいと思うし、キャンプ場などを作ると、家族連れの人達がたくさん来てくれると思う。だから数年前までは、遊ぶ所をいっぱい作って、観光場所もいっぱい作ればいいと思っていた。

だけど、この二年くらい前から、考えが変わった。

私が落ちこんだ時、海を見ると元気がでた。夜、外に出て真っ暗な空に散る星たちを見てみると大切なものが何なのか気付かせてくれた。

切ない時もつらい時も、うれしい時も悲しい時もいつも見続けてきたこの景色が変わってしまったのは嫌だと思った。

生きていくこと以上を望んで、油谷町や大浦を開発して、今の自然をこわすのは嫌だ。

大浦からだか買物に出るのも時間がかかる。何かと不便な点もある。

けれど、ここは住みやすい。出会ったばかりの人とでも仲良くなれるし、みんなで暮らししているのがよく分かる。

だから私は、この町を変えなくてもいいと思う。たとえ人口が少なくなっても、みんないなくなるわけじゃない。

大浦に人が一人もいなくなってもこの景色だけは変わらないでほしい。晴れた日には星が見えて、海岸には船がとまっていて、よくしゃべるおばさん達がいる。

そんな大浦が好きだから、何一つ変わらないでほしい。

生きていくこと以上を望んで自然をこわした

くないから。

人口が少なくなってしまうてもかまわない。だけど私の大好きな大浦だけは何も変わらなくてほしい。今のままがいい。

